

奏者紹介



寺原 太郎 (てらはら たらう)

バンスリー奏者

91年より巨匠ハリ・ブラサード・チョウラスィア師の弟子である中川博志氏に、96年より巨匠ニキル・ベナルジー師の愛弟子H.アミット・ロイ氏に師事。06年より継続的にオーストラリアWoodford folk festivalに出演。07年坂本龍一プロデューズ「ロハス・クラシックコンサート」出演。映画「手塚治虫のブッダ 赤い砂漠よ永遠に」(2011)、映画「るろうに剣心」(2012、2014)、スーパー歌舞伎II「ワンピース」(2015)で挿入曲を演奏。インド、オーストラリア、南米、北米をはじめ国内外で演奏活動を行う。共演にU-zhaan、常味裕司、Tenzin Choegyalなど。インド古典音楽の深い理解に基づく、叙情的かつダイナミックな演奏で、各方面より高い評価を受ける。千葉市出身、佐倉市在住。
http://srgmtaro.jimdo.com/



Glen Kniebeiss (グレン・ニービス)

tabla奏者

1998年にtablaを学び始める。インドでは、デリー派のUstd. アンソニー・ダス、ベナラス派のPt.イシュワラー・ミシュラ、Pt.ラチューー・マハラジ等の巨匠に師事。また、Sriウマカンタ・ダシュをはじめ、Sriバンカジ・クマール、Sriビイバハシュ・マハラジ、Sriキョール・バンデ等多数のtabla奏者の元でも学ぶ。グレンの演奏は、ラヤ(リズム)の良さ、クリアな音、表現力あふれるバヤの音色に定評がある。メルボルンのみならずオーストラリア国内の様々なフェスティバルのほか、インド、日本、オランダ、デンマークなどでも演奏を行う。2014年9月にオーストラリア、メルボルンから日本の古都、京都へ。京都をはじめ関西を中心に活動中。

寺原 百合子(てらはら ゆりこ) タンブーラ演奏

北インド古典音楽について

北インド古典音楽の起源は古く、声明のルーツであるヴェーダの詠唱がはじまりとされていますが、現在のような壮大な音楽大系が形作られたのは今から約400年程前。ペルシャ文化との融合により、マハラジャやムガル皇帝たちの宮殿で華ひらいた宮廷音楽です。宗教的で数学的な南インドの音楽とは対照的に、王たちを癒し、眠りを包みこんできた北インドの音楽は、より叙情的で官能的な演奏を特徴とします。優れた楽師を抱えることはマハラジャ達の権威を示す贅沢な趣味でもありました。

インド音楽は季節や気候、演奏される時間帯によって使うべき音の動きが決まっていたり、一定のリズムサイクルの中で複雑な分割を遊んだり、通な聴きどころが多く、通常演奏時間は1曲が30分から1時間に及ぶこともあります。ゆったりと瞑想的に始まり、途中からtablaのリズムが加わり徐々に加速して、最後は熱狂的なクライマックスを迎えます。後半の旋律奏者とリズム奏者の即興的な掛け合いはとてもスリリングです。



参加申込用紙

※参加される方は、下記の必要事項をご記入の上、FAX・メールにてお送りください。
※記入された個人情報、受付処理・集計の目的以外では利用いたしません。

[FAX]050-3588-6427

[E-MAIL]k_nakashimaya@mx7.kct.ne.jp

■参加者①お名前(フリガナ)	■参加者②お名前(フリガナ)
■参加者③お名前(フリガナ)	■参加者④お名前(フリガナ)

■住所 〒	■連絡先携帯電話番号、Eメールなど
-------	-------------------

■備考
